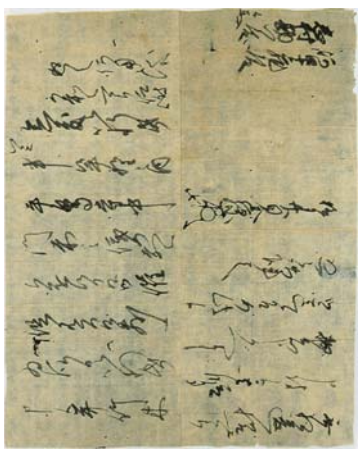


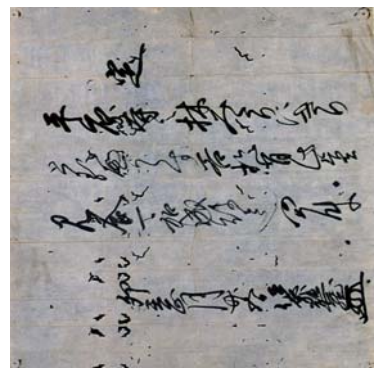
# 平源寺（へいげんじ）の朱印状（しゅいんじょう）

後北条氏滅亡後、豊臣秀吉の全国統一(1590)により、徳川家康は関東(江戸城)に入府すると、川越や忍(おし:行田市)・岩槻など県内の諸城には譜代(ふだい)の有力大名が配置され、その他は直轄領(ちよかつりょう)や旗本(はたもと)の知行地(ちぎょうち)となりまりました。また、神社仏閣にも所領安堵を行ない、民心の安定を図りました(ちよ)が、蓮田市内でも平源寺(へいげんじ)に書状(しよじょう)や朱印状(しゅいんじょう)が残されています。

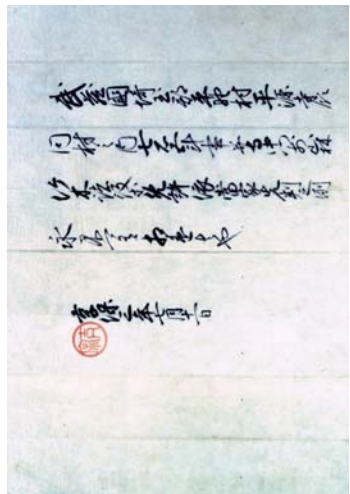
古いものから徳川家康の祐筆(主人の代わりに書面を作る人)であった全阿弥の所領安堵の書面(2通)、徳川家光朱印状(貞享2年:1685)、徳川吉宗朱印状(享保3年:1718)の合計5通が存在しますが、代々の将軍が書面を出したわけではありませんでした。



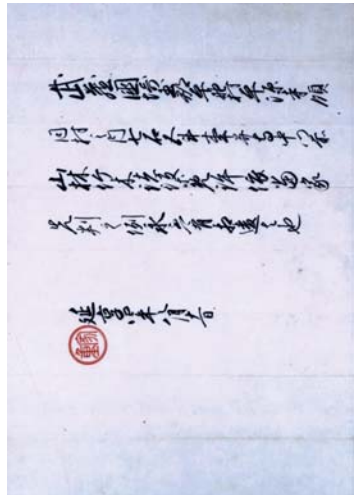
① 平野平源寺中・門前安堵につき全阿弥書状 天正18年(1590)



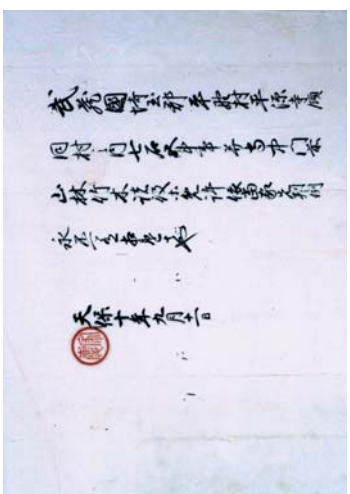
② 伊奈忠次制札 天正19年(1591)



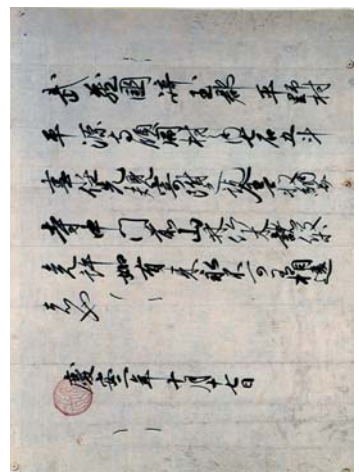
⑤ 徳川吉宗朱印状 享保3年(1718) 吉宗が将軍職に就いて3年後の早い時期の朱印状



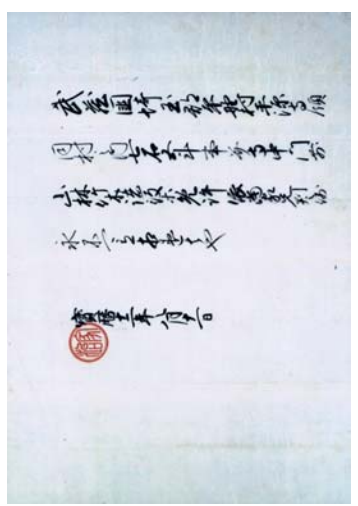
⑥ 徳川家重朱印状 延享4年(1747) 家重が将軍職に就いて2年後の早い時期の朱印状



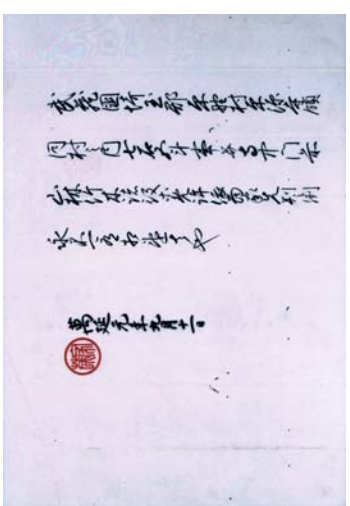
⑨ 徳川家慶朱印状 天保10年(1839) 家慶が将軍職に就いて3年後の早い時期の朱印状



③ 徳川家光朱印状 慶安2年(1649) 家光が将軍職に就いてから28年後の晩年の朱印状



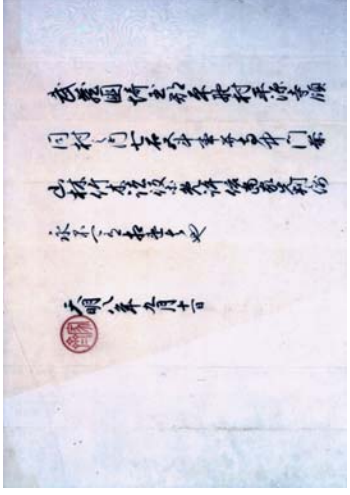
⑦ 徳川家治朱印状 宝暦12年(1712) 家治が将軍職に就いて3年後の早い時期の朱印状



⑪ 徳川家茂朱印状 万延元年(1860) 家茂が将軍職に就いて3年後の早い時期の朱印状



④ 徳川綱吉朱印状 貞享2年(1685) 綱吉が将軍職に就いて5年後の比較的早い時期の朱印状



⑧ 徳川家斉朱印状 天明8(1788) 家斉が将軍職に就いて2年後の早い時期の朱印状

家光の治世では、晩年の発行でしたが、5代将軍綱吉以降は安定して早い時期に発行されていたようです。また、寺領は7石5斗で各将軍共に安堵してました。当時の米の単位は、「合(ごう)」、「升(しやう)」、「斗(と)」、「石(こく)」で、1升砵の大きさもまちまちでしたが、寛文9年(1699)に統一(方4寸9分、深さ2寸7分、容積1.804? : 1寸=9cm、1分=3mm)されました。この他にも徹は、古くは6斗で1俵でしたが、明治末には4斗で1俵に統一されました。現在の重さに換算すると、1合=約150g、1升=約1.5kg、1斗=約15kg、1俵=60kg、1石=約150kgで、**7石5斗では、1,125kg**ということになります。昭和35年の年間消費量が約115kgでしたので、**約10人分を年間賄える量**ということになります。ちなみに、現在の年間消費量は半分(約60kg)まで減少していますが、他の穀物類への依存率が高まったためです。